

判定事故発生時の対処方法について

判定事故が起こらないことが一番ですが、審判としてグラウンドに立つ中で、さまざまな「想定外」に立ち会う場面がないとは言いきれません。試合中に万一、判定事故が起こってしまった場合の対処方法について知っておくと、きっとグラウンドで助けになるはずですよ。

【判定事故の例】＝必要に応じ、協議を行うことができる。

- ・ **プレイの見落としや見誤り、勘違いで、事実と異なる判定が出てしまった。**
(タグ/ノータグ、キャッチ/ノーキャッチに関する見落とし、見誤りが多発)
- ・ **複数の審判員が1つのプレイに対し、食い違う判定を下してしまった。**
(ダブルコールのないように、試合前に分担を確認しておくこと)
- ・ **プレイが起きているのに、判定が出なかった。**
(フォーメーションが崩れて審判員のベースカバーが遅れた時や、タッチアップのアピールがあった時に起こりやすい)

【判定事故ではない例】＝協議したり、抗議を受け付けたり、判定を変更したりしてはいけません。
(誤審と思われる場合も、出された判定で通すしかない)

- ・ **アウト、セーフのタイミングの判定 (落球やオフザバグがあった場合は別)**
- ・ **ーフスイング** (球審がスイングをとった場合はそれで判定確定、塁審へのリクエストがあった場合はその判定が最終になり、それ以降は変更できない)
- ・ **投球判定** (球審の判定が最終)
- ・ **インフィールドフライ、ボーク** (タイミングを逃さずに適用を。後からは適用できない)

★判定事故を起こしてしまったかもしれないと思った時には、まず「タイム」→協議！

自分の出した判定に疑念がある場合(判定事故の可能性がある場合)は、他の審判員の意見を聞くことができます。これは規則で決まっていますので、落ち着いて行ってください。特に、上記の「判定事故の例」で挙げたようなものはすぐに協議をしたほうがよいです。

頭が真っ白になり、協議もせずに判定を覆してしまう方がおられますが、これが一番やってはいけないことです。判定を変える可能性が少しでもある場合は**必ず他の審判員と協議する**ということを入れておきましょう。**協議を経て、変更するのが正しい手順**です。

なお、協議は原則的にグラウンドに立つ4名の審判員で行います(仙台市野球協会では、控え審判員が入って5名で協議というパターンも有)。この時、絶対に**指導者や選手を協議の輪の中に入れてはいけません**。もし協議に入って来ようとした場合は4氏のうちのどなたかが注意、警告を行ってください(注意を行うのは判定を出した審判でないほうが無難)。

★判定を変更するには、100%以上の自信と確証が必要

一度出た判定を変更するには、それ相応の「判断材料」が必要です。4氏それぞれ、プレイを見ている位置や、その位置から感じる音などの判断材料が違いますので、**審判員一人ひとりの判断材料を持ち寄り、最終判断を行ってください**。ここでは球審・塁審、あるいはゴールド・シルバー、年齢等の立場は関係ありません。100%以上の自信と確証を持った上で最終判断ができるよう協議してください。うやむやな最終判定の出し方をすると、かえって事態を大きくしてしまいます。

★判定を変更した場合は両チーム監督に説明を！

協議の末、判定を変更した場合は両チーム監督への説明を行ってください。結論だけを述べず、最終判断に至った根拠も示したほうが丁寧です(例:「4氏協議の結果、**落球が確認できたのでセーフにします**」「**タグしていないことを確認したのでセーフにします**」など)。ルール通りの手順を踏んでいるので、判定を変更したからということでは監督に謝罪をするのは控えてください。